

観音前遺跡 第61地点

遺跡名	観音前遺跡
よみがな	かんのんまえいせき
調査地点	第61地点
主な時代	弥生時代後期（約1750年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	富士見市大字水子1846番1、1855番1、1855番2、1856番1、1857番、1858番1
調査面積	2581.31㎡
調査期間	令和3年5月10日～6月21日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代土坑1基、弥生時代後期竪穴住居跡8軒、平安時代竪穴住居跡7軒、溝跡4条、土坑16基</p> <p>【出土した主な遺物】 甕、台付甕、須恵器坏、瓦</p> <p>【概要】</p> <p>観音前遺跡は武蔵野台地縁辺部に位置し、北西に荒川低地と新河岸川、南東に柳瀬川を臨む低地と支谷によって画された支台先端部に立地しています。</p> <p>当遺跡は弥生時代後期と古墳時代後期、平安時代の集落が中心となる複合遺跡で、今回の調査でも弥生時代後期と平安時代の集落が確認されました。確認された弥生時代後期の竪穴住居跡からは、炭化した木材や赤く焼けた土が出土しており、住居の廃絶時に不要になった家屋の廃材等を燃やした痕跡と考えられます。また、平安時代の竪穴住居跡からは須恵器や土師器といった食器・調理具の他に、古代の瓦が出土しました。本地点周辺でも瓦が出土していることから、周辺に瓦を焼いた窯跡か瓦葺の建物が建っていた可能性を示しています。</p>



弥生時代後期の竪穴住居跡完掘状況



平安時代の竪穴住居跡から出土した炭化材



平安時代の竪穴住居跡完掘状況



平安時代の須恵器出土状況